

## 第1回 三木市多文化共生推進プラン策定検証委員会議事録 概要

- 1 開催日時 令和4年11月30日(水) 13:30~15:15
  - 2 開催場所 三木市役所4階 特別会議室
  - 3 出席委員 12人(欠席委員:3人)
  - 4 事務局 市民生活部長、市民協働課長、市民協働課多文化共生係
  - 5 協議事項 (1) 三木市多文化共生プラン策定について  
三木市の指針(総合計画)の概要と推進プランについて  
(2) スケジュール(案)  
(3) アンケート調査、ヒアリング調査の進捗について  
(4) 調査結果(案)報告
  - 6 議事録 部長挨拶  
委員委嘱  
委員紹介(自己紹介・挨拶)  
事務局紹介(自己紹介)  
委員会の概要について事務局から説明  
傍聴、会議録公開について  
委員長、副委員長の選任  
事務局提案で、委員長に乾委員、副委員長に植田委員を選出  
異議なしの声  
委員長は体調不良のため、副委員長が挨拶
- (1) 三木市多文化共生プラン策定について  
三木市の指針(総合計画)の概要と推進プランについて
  - (2) スケジュール(案)
  - (3) アンケート調査、ヒアリング調査の進捗について
- 議事(1)~(3)について、資料1~資料6、アンケート調査用紙等の説明(事務局)

【質疑】

副委員長	<p>この資料につきまして、まず委員の皆さまから、何かご質問や確認しておきたいことなどはありますか。</p>
委員	<p>児童・生徒の増加の理由として、私の認識では、特定技能1号ではまだ家族帯同ができなくて、2号からと聞いています。おそらく技能・人文・国際のエンジニアの方が増えたからではないでしょうか。</p> <p>それから、私はこの中に外国人でなくても、外国にルーツがある人、外国生まれの日本人も含んでいただけたらありがたいです。全く日本語ができない人というところでは同じではないかと思っています。</p>
事務局	<p>外国人の児童・生徒が増えているのは、家族帯同の特定技能を特定する訳ではありません。日系の方についても子どもを呼び寄せられるので、広く捉えていただきたいと思います。</p> <p>それからどういう人を「外国人」、どういう人を「日本人」とするかは、プランを策定する上で、定義を決めたいと考えています。</p>
委員	<p>委員会委員の皆さんに認識を持っていただければありがたいです。</p>
委員	<p>市内の外国人の数だけではなく、外国人同士の世帯数、どちらかが外国人でどちらかが日本人とかは分かるのでしょうか。</p>
事務局	<p>外国人の地域人口や世帯数の統計はあります。統計はホームページで確認できるのではないかと思います。</p>
委員	<p>そういうのもまた教えていただけるのでしょうか。</p> <p>2人とも外国人だということになると、外国人同士でどうしても話すので、なかなか日本語の獲得が難しいというのがあります。</p>
事務局	<p>プランのなかにもそういったものが必要であれば、資料としては載せたいと思います。</p>
委員	<p>今の話から派生するのですが、日本国籍を持っていても、ルーツが外国にある児童・生徒というものもいるはずで、国籍は日本人になっ</p>

	<p>ているけれども、日本語は話せない、日本語の授業についていけない日本人生徒というの也有います。おそらくこれはデータとしては出てきにくいかと思うのですが、学校現場で把握できればまた活かせると思います。</p>
事務局	<p>日本国籍を持っていても外国で育っていたら日本語が理解しにくく、日本での生活がしづらいことがあったりするので、データでは正解の見えないところも出てくるのではないかと思います。プランを策定する中で揉んで頂いたいただいたほうがいいと思います</p>
委員	<p>県からの支援が受けられない、外されてしまうケースがあります。学校現場で通訳のサポートがつくとか、日本語教室に出してもらえとかというのは、表向きは外国人生徒だったりするのです。</p>
事務局	<p>おそらく、教育委員会では、そのようなルーツや日本語が話せるか話せないか、日本に来て間もない人というようなことは把握していると思います。</p>
副委員長	<p>資料4の推進プラン概要に関してなのですが、やはり大事なことは現状分析と実態把握。そこから課題を見つけてということになるかとは思っています。</p> <p>現状に関して、「総合計画」の中にも10年後は「価値観の違いを認め合い」、そんな社会をめざすということが書いています。ということは、現在はその価値観の違いを十分認め合うような状況にはないということ、あえて言っているということ、もちろんそこに到達するには長い時間があると思います。</p> <p>また、「だれもが住みやすいまちづくり」に10年後はなっているということなのですが、今、ご参集いただいている様々な立場の委員さんから、ご自身関わっておられる多文化に関すること、また外国人に関することで現状はこうだということ、一言ずつ述べていただきたいと思うのです。いかがでしょうか。</p>
委員	<p>私どもは、7年ほど前に初めて外国人従業員の受入れをしたとき、地域住民との軋轢があり大変だった記憶があります。それ以降、三木</p>

	<p>市が多文化共生にどのように取り組んだかは分からないのですが、外国人の増加から住民理解も進んでいる傾向は感じています。</p> <p>プランづくりをして、市全体で多文化共生を推進することで、凝縮して共生が進んでいくのではないかなと思います。現状、この課題を住民がどれくらい理解しているか、外国人がどういったことに困っているのか、私も知りたいところです。</p>
委員	<p>私が働く工場でも、外国人の留学生がたくさんきます。先ほどの委員と同じく、当初は、今まで日本人だけで生産活動を行っていたところに、ある日突然外国の方が入るということで、社員の中でもとまどいがありました。</p> <p>しかし、ここ2、3年くらい、いつの間にか工場の中の人たちも外国人を受け入れようという気持ちに自然に変わってきたと感じます。今では逆に自分たちから身振り手振りで話しかけ、一生懸命コミュニケーションを取っている姿とかを見て、嬉しく、ありがたいと思っています。外国人の力を借りないと今の製造業はとても厳しいと思いますので、ぜひ一緒になって一つのものをつくりあげたいと思っています。皆が共生できる素敵なプランが出来ると良いなと感じています。</p>
副委員長	<p>10年で、外国人の数が倍以上になっています。三木市の人口は減ってきているので、人口に占める外国人の割合が増え、普通になってきた部分もあるのではないかなと。これは様々な分野での取組みの成果だとは思いますが、課題もあります。そこの課題を上手く見つけ出して、今後さらに推進できたらと思います。</p>
委員	<p>来年小学校1年生になる息子が一人います。会社は三木市にあるし、子どもも来年から小学生なので、三木市に移住を考えました。半年かけて不動産会社を回り、条件を満たした家を探したのですが、最後になって全部だめになりました。第三親等の保証人がいないと出来ないと断られたからです。私と妻の第三親等の親族は日本にはいません。この保証人がいないと、私と妻の希望する物件は借りることができませんでした。経済的には、自分なりに頑張って家賃は払えます。ただ保証人は日本にはいません。</p> <p>もちろん、たくさんの日本人の方にお世話になってきているので、</p>

委員	<p>前に勤めていた会社の社長に頼むことはできますが、第三親等ではないのです。こういう現状もまだあるのです。神戸の自宅はローンで購入しました。その前は貸家ですが借りることができました。三木市では借りることができなくて、残念です。</p> <p>今まで外国の方が多くは思っていなかったのですが、昨年コロナワクチンの集団接種に行くと本当に多いです。イスラム圏の方、ベトナムや中国の方、色々な文化圏の方が来られてそういう意味で多様性のある色々な文化を持っておられる。</p> <p>医療に関しては、例えばベトナムの方であれば、ベトナムの方で日本語がある程度できる先輩が連れてこられて、問診の内容を伝えてくれるので、ワクチン接種でもそういう意味ではほとんど困らなかったです。特養のほうにも仕事で行っているのですが、そこもやはり介護職員はベトナムから来られています。日本に来る前に日本語学校で日本語を学んでいるので、介護を受ける方ともコミュニケーションは取れているようです。</p> <p>グループのコミュニティがあるから、先輩から後輩に教えたり、案外言葉については、現場では不自由はなさそうです。</p> <p>ただ、職種によっては日本語が全然話せずに来られているという方もやはりおられると思います。そういう意味で、言葉というのは一番ネックになるのだらうと思うのです。</p> <p>これは学校であったことです。お父さんとお母さんは、あまり日本語が話せない。でも子どもは小さいときから日本で育っていて日本語が話せるから、逆にお父さん、お母さんの通訳として連れてこられます。子どもは環境に比較的早く馴染めるので、子どもの教育は大切だと思います。</p>
副委員長	<p>ありがとうございます。地域のほうからいかがですか。</p>
委員	<p>自治会で会長をしていたときの話ですが、うちの自治会に、外国人の借上げ社宅が3棟ありまして、ゴミの分別ができないということ</p>

	<p>と、騒音が問題になり、会社のほうにご連絡させていただいたことがあります。</p> <p>最終的には会社が業者に手配されてゴミの回収をしてもらうようになり、騒音は会社の方に「日本の生活ルール」についてきちんと説明していただくようお願いして解決しました。</p> <p>私は客観的にみると、地域住民はまだまだ外国人に対して抵抗があると個人的には思っています。</p>
副委員長	<p>ありがとうございます。確かに、私が住んでいた地域、住んでいる地域でも非常によく似たケースがあったのですが、その場合もやはり会社の関係の方と相談する中で改善されてきた経緯があります。他にかがでしょうか。</p>
委員	<p>私たちの地区は、防災に取り組んでいます。やはり外国の方は、「どこに逃げて良いのか分からない」と言っています。日本語を理解することが十分でない外国人もそういう意味ではやはり要援護者なのです。防災用語は難しい言葉を使うので分からないのです。やさしい日本語を使うことが望ましいです。</p> <p>あとゴミ出しですが、うちは全部で120軒、230人です。そのうち23人が外国人です。最初はゴミ出しが、めちゃくちゃでした。日本人でさえ簡単に分からないのに無理もありません。私が行なったのは、一緒に仕分けするということです。生活環境課にベトナム語や中国語で書いてあるゴミの仕分けのパンフレットをもらって、階段に貼って一緒に仕分けしたのです。一緒にやると大体3回ほどできちんと分別できます。ただそれが3年くらいで入居者が変わるのです。そしたらまた同じように一緒に仕分けをします。その繰り返しです。</p>
委員	<p>我々は、地元の商売人さん、起業家さんのお手つだいをする組織です。我々が外国人労働者の相談窓口という認識をされていませんので、あまり具体的な相談はありません。</p> <p>大きな企業に外国人労働者の方が来ているというような感覚で捉</p>

	<p>えていたのですが、最近、小さい土建屋さんにもベトナム人の方がおられるので、これからますます我々も相談窓口として相談に乗っていかないといけないのかと実感もしています。インバウンドだけではなく、地元に住まわれている外国人住民が、路線バスや、高速バスに乗るときに、「この〇〇行きのバスはどこに行きますか？」ときちんと日本語で聞かれたのですが、そういう方は本当に生活に密着した感じでおられるのだなというような実感もあり、本当にそういう細かいところでますます課題がたくさん出てくるのだと。</p> <p>私たちとしては、地元企業への支援をそういう側面でもしていけたらよいなど。そういう意味でプランがしっかりできていくとありがたいと思っております。</p> <p>去年、パラリンピックで外国チームがきたときに、ボランティアにはすごく良くしていただいたのですが、言葉やジェスチャーが違ったり、外国チームの人が親しくなろうと思って髪の毛を引っ張ったりすることで、ボランティアの子どもたちは、それをからかわれたと思ったりすることがありました。</p> <p>言葉とともにどうしてもジェスチャーの違いで、コミュニケーションが上手く取れない時あります。そういった言葉と一緒に、例えばジェスチャーや悪気が無い表現というのを、お互いに理解できるように周知していけたらと思ったっています。</p>
委員	
副委員長	<p>様々な現状、また課題等も見え隠れしていたと思います。やはりこういった新しいプランを策定していく必要性が出てきているということが感じられました。</p>

#### (4) アンケート結果報告

議事 (4) について、調査報告書の説明 (事務局)

副委員長	<p>「アンケート結果報告」について、委員の皆さまからご意見等ございますでしょうか。</p>
委員	<p>意外に在日期间が1年の方から5年の方まで、ほぼ真ん中当たりが多数を閉めており、その辺りを注意すれば、どなたにも共通した問題解決できるのかなと思います。</p> <p>例えば、短く簡単な日本語で書く、漢字にルビをふる、あるいは大体自分の言いたいことは多少言えるとか、長い在日期间がない人でも、1年未満の方でもそういうところが多いということであれば、その辺りの共通項をめざしてやれば、比較的どなたにもやさしい、住みやすい環境になるのかなと思いました。</p> <p>意外にも年数によって差がないということがわかったので、共通すると、ゆっくり話したら大体理解できるということですね。</p>
委員	<p>在日期间が1年未満と1年から3年未満、3年から5年未満というところで、読むことができるという質問に結構高いパーセンテージが出ているのは、おそらく技能実習生かと。母国である程度の読み書きだけを学習しているので、このパーセンテージに現れたと思います。ただ本当に、5年以上いても読み書きができないこともあるので、単身で来られて、コミュニケーションの中、会話の中で言語を獲得した人と、それから母国で学習した人の色分けはあったと感じました。それは少し認識しておいたほうが良いと思いました。</p> <p>例えば中国の方、名指しして申し訳ないのですが、漢字圏なので漢字が読めてしまうのです。ただ、本人はコミュニケーションはできているのですが、実際にはコミュニケーション能力は低いということを会社の担当者から心配ごととして相談を受けたことはあります。</p>
事務局	<p>アンケート結果では1年から3年とか、3年から5年とかに分かれていますけれども、相談窓口に来られた方で、びっくり</p>



	<p>するようなことがあります。日本に何十年住んでいても、話せない、読めない方はいます。子どもが話せる、家族に日本語が分かる人がいれば、何十年間も日本で生活しても日本人との会話をせずに生活している方もおられるので、私たちのとったアンケートではあるのですが、全てではないということは、認識いただいたほうが良いと思います。</p>
事務局	<p>単純に在留年数で測れない部分で、今後問題になってくるのは、子どもの教育の問題です。</p> <p>小学生、中学生に関しては、まだ十分とはいえないとまでも学校でのフォローというところがある程度進んではきていますが、高校進学に非常に大きな課題があるというのが現実にあります。それを行政としてどこまでできるかというのはなかなか難しいところなのですが、家族帯同が増える中、子どもへのフォローアップは立ち遅れている部分もありますので、このプランの中で、皆さまの知見を活かしていただき、色んなご意見を出すなかで、多面的な視点で議論をさせていただけたらと考えております。</p>
委員	<p>先日、調べたのですが、三木市の小中学校には 100 人程度の外国籍の子どもが通っています。就学前までが 35 人、移動する大人についてきて移動せざるを得ない子どもたちです。10 年後にどういうふうに進学できていて、社会にどのように飛び込んでいくのかということも考えることが必要だと思っています。</p>
委員	<p>日本人との交流機会があるといいなと思っている外国人の人たちが多い反面、日本人はこれから外国人と「積極的に関わっていきたい」という人が少なく、「現状維持でよい」という人が 42.6 パーセントというのは残念だと思います。</p> <p>外国人の方に聞いてみると、やはり日本人の友だちはなかなかつくれないと聞きますが、おそらくこの外国人の「日本人の友人や同僚」は職場の同僚という意味で書いていると思います。日本</p>

	<p>人も外国人の友だちがいないと回答している人が多いので、このアンバランスを解消していきたいです。</p>
副委員長	<p>そうですね。私も丁度この6ページから7ページにわたるところが mismatch だと思います。外国人のニーズとそれから日本人の想いが少しずれているのは見て取れます。数値はこうなっているのですが、外国人の方はできるだけ色々な方と親しくなりたいとは思っているけど、日本人の方は現状のままでという。それはどうでしょうか。数字のとおりでしょうか。</p>
事務局	<p>日本人では「現状維持でよい」という人が多いです。日本人は外国人とのトラブルがあまりないと回答していますが、「現状維持でよい」とか、「あまり外国人の方が増えなくてもよい」と思っている人がいて、おそらく外国人の友人がいる方は外国人と積極的に関わりたいと思っている人が多く、外国人の友だちがいらない日本人は、少しフィルターをはってしまっているようなので、意識改革は大事だと考えます。</p>
事務局	<p>今、事務局から説明があったのは分厚い報告書のほうでいうと、99ページ、ここは全体をまとめた考察のところ、友人がいる人といない人で、「外国人住民が増えることについてどう思いますか」と尋ねた表になっています。今説明があったように、友人がいる人は良いことだ答えています。いない方に関してはそれが減ることで、普段からのコミュニケーションが少ないから、やはり積極的に関わろうというところに抵抗があるだけであって、友人がいる方に関しては、どんどん進めていきたいと思います。えのある方が多いのかなと思います。</p> <p>ただ、今回、すべてがこの結果でわかるわけではないので、その中から少しずつ皆様のご意見をいただきながら、プランのところに反映していくのが良いのではないかなと思います。</p>

<p>委員</p>	<p>アンケートの取り方ですけれども、これは外国人はどう思うかということでアンケートを取っています。では日本人に「日本人とどう付き合いたいですか」というアンケートをとったときに、もし積極的に関わっていきたい人と、現状維持で良いという人と、あまり関わらない、関心がない、分からないというのがほぼ同じであれば、それはもう外国人であれ、日本人であれ、考え方は同じなので、今の傾向ということになる。特別に外国人を意識しているということではなく、その対比が問題なので、それだけで、必ずしも外国人が嫌とか、そういうことを言っているわけではないと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>おっしゃるとおりで、今の日本は人口減少社会というところと、地域コミュニティや近所づきあいというものを以前に比べて拒否する方が多くなってきているというところなんです。今、地域共生社会と言われるところになるのですが、一緒に手を取り合っ、助け合っ、いこうというまちづくりを、日本全体で進めていこうというところにありますので、ご指摘のとおり、そういう近所づきあいとか、日本人同士ですらこういう機会が減ってきているということは間違いないと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>委員の言われる通り、外国人相談窓口を開いていますが、最近では日本人の方の相談が多く、地域に外国人住民が何人か住んでいるけど、その人たちに生活のルールをどうやって教えたらいのかと自治会の方からの相談が増えています。</p> <p>日本人同士にしても外国人に対してでも、なかなか密接につながることを避ける世の中にあるからこそ、ルールを守って生活しなければならないというイメージが強く、トラブルの原因にもなる生活習慣やごみ出しルールの周知を、多文化共生係（相談窓口）では取り組んでいるところです。地域の実情をお話いただいたとおり、やはり守らないといけないルールは当然守ってほしいのですが、そのルールを元々知らない人もいるというこ</p>

<p>委員</p>	<p>と、まず知ってもらふところから取り組んでいるのが現状です。</p> <p>先程、自治会からお話があったように、教えたら3回くらいできちんとできるということですから、公共的なマナーというのを守っていただいたら、あとは文化、習慣、宗教、食べ物だって違うのですから、そこは認め合うという。でも最低限、一緒に生活していく上でルールは共通ですから守りましょうと、お互いに認め合う関係で共生ができると思います。ルールを教えるということが大事だと思います。その都度教えたら出来るようになると、そういうことを通じてお互いが認め合える環境はできると思います。</p>
<p>副委員長</p>	<p>理解し合うという前に、まず、知っているか、知らないのかという、その入り口の前段階のところでは引っかかっている問題が結構あるんじゃないかというご指摘です。</p> <p>ほかに、このアンケートについて何か感じられたこと等、ご質問はありますか。</p>
<p>委員</p>	<p>日本人のほうで「現状維持でよい」という中に、異文化・多文化を理解する経験がない、意識がないというケースがあると思います。三木にきた外国人の方にルールを教えるということはもちろん必要なのですが、日本人の側にも多文化・異文化への理解を深める機会をつくらないと実現しないと思います。</p> <p>具体的に言いますと、私の職場にイスラム教徒の方が入ってきたのです。入ってくる前に、イスラム教徒がどういう生活か分からない。仕事時間の間にお祈りの時間、場所が必要だということで、それだけで怖くなってしまった人がいて、一緒に働きたくない、休憩場所も別にしてほしいといたしたので、私の知識の範囲で、食べられないものはこれとこれ、お祈りの時間はあるけれども、私たちと同じ人間であるという説明をしても、一度拒否反応を起こした人はダメなのです。実際に一緒に働くようになって、</p>

<p>委員</p>	<p>コミュニケーションもとれるようになってきたら、怖くないと、一緒にやっていけるとなるのですが、触れ合う機会がない方に関しては、広報していかないと相互理解は難しいと思います。</p> <p>私は 17 年間外国人男性の方と結婚をされており、子どもが 2 人おりました。当時、私はカタカナの名字でした。最初に辛かったのが、入学式のために、子どもたちが少しからかって「漢字の名字をつくってきたら入れてあげる」と言われて、私は子どもと辛い思いをしました。徐々にママ友ができてきましたが、あの辛さは、今でも思い出したら何ともいえない気持ちになります。日本人と外国人の間に生まれた子どもというのは、どちらかというとはねられてしまいます。現在は 20 歳を超えましたが、当時はもっと切ないことがありました。だから知っていただくという環境、感情の齟齬がないように、子どもたちが育っていけるようにと願ったことが今は懐かしく思い出しました。</p>
<p>副委員長</p>	<p>非常に活発なご意見をいただきましてありがとうございます。それでは、特にご意見がないようですので、事務局のほうに司会をお返ししたいと思います。</p>

## 7 閉会

### 今後のスケジュール

今年度中にもう 1 回、次年度に 2 回程度開催

次回の策定協議会の開催日は 2023 年 2 月 8 日（水）を予定

日時が確定次第、書面で通知、資料については、事前に配布する。

○課長挨拶